分析センター建物の竣工によせて

工学部長　八十島　義之助

分析センターの機器がいよいよ一箇所に集められ，名実共に集中管理が始まろうとしている。3年も前になるが，学部長就任間もなくの頃，分析センター訪問を思いたった。突然ではあったが，時のセンター長の野平先生は快く受け入れ，自分から案内をかってでられた。

センターの建物に玄関があり，その中に入ると様々な機器類が並んでいるのだろうと思いながら，センター長の後をついて歩いていたのだが，学部，学科内のとある一室の前に立ち止まり，これから見せましょうと言うのであった。全くわたしの認識不足だったのだが，センター所属の機器は学部，学科にまたがってあちこちに分散していたことを，その時はじめて思い知らされたのである。

大型分析機器類を集中管理するというセンター規程の歌い文句には程遠い現状に対し，センター長以下関係教職員が万般の努力を払って管理運営につとめておられる姿にあらためて敬服したものである。

それから間もなくして，センターのための建物を学部の棟とは独立して作るという話が浮かび上がって来た。予算の確保も大変だったが，位置の選定もむずかしかったのは周知のとおりである。紆余曲折を経て最終的にきまったのが，工学部管理棟の横である。

それはちょうど同じく建物を必要とする筈の情報処理センターと一緒の，当時のいわゆる合築棟という形であった。そして昨年夏前に工事がはじまった。直接，立場上の関係はないのだが，わたしの部屋と壁一つへだてた所でやっている工事だから，全く無関係というものでもなかった。

かなり立派に成長した立木をどこに移設するかとかの話も耳にはいってくる。そして突如として，コンクリートの外側をこわすのだろうが，穿孔機か何かのド，ド，ドという音が舞い込み，話し中の電話などは中断の已むなきに至ることも再三あった。しかしよくしたもので，迷惑施設を作るために出すとなると音は騒音になる。しかし，わたし達にとってプラスになる物を作るための音だということになると，左程気にはならない。そして一日ごとに，とにかく進んでゆく工事を垣間見ていたのである。

その建物もいよいよ竣工し，情報処理センターと同居とはいえ，分析センターは，それらしい体裁も整えられた。大変喜ばしいことである。われわれの個人の生活にも，大きな組織にも，選択の段階と行動の段階とがあり，一般的に両者が互いにからみ合いながら物事の進む場合も存在する。その都度，われわれは，何が最もよい選択であり，どうすればそれが最も良い行動かを考える。

この数年，分析センターとその建物について，関係者はその選択の段階でいろいろ苦心と工夫の日をすごされたと思う。しかし，こうして立派に建物も竣工してみると，いよいよある面では行動の段階にはいったという気がするのである。つまり，これからは，この建物とその内容とする機器を，如何に有効に活用してゆくか，という行動が問題になるのである。もし折角の建物が無為にして，効果的に使われなかったとしたら論外である。どうか，その活用を関係者一同で推進していただければと念願する次第である。